

避難行動 6.1%どまり

広島県で大雨警戒レベル4

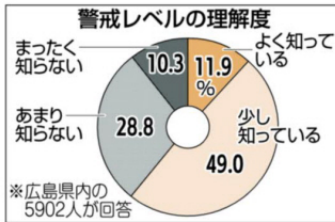
県立広島大調査 高齢ほど逃げず

全国で初めて「大雨・洪水警戒レベル」（5段階）の「レベル4」が出た広島県内で、当時、避難行動を取った人は6・1%にとどまったことが17日、県立広島大（広島市南区）によるインターネット意識調査（速報値）で分かった。警戒レベルについて6割が分かりやすいと評価した一方、「意識や行動に変化はない」との回答も6割あった。警戒レベルを早めの避難につなげる難しさが浮き彫りになった。

いのちを守る

検証西日本豪雨

警戒レベルは気象庁が5月20日に運用を始め、各市町村が順次導入。広島市と海田、熊野、坂町が今月7日、全員避難する「レベル



大雨・洪水警戒レベルの5段階区分

※大雨特別警戒は洪水や土砂災害の発生情報はないが既に災害が発生している可能性が高い情報として取り扱う

警戒レベル	住民が取るべき行動	住民が自ら避難の判断を下す際に参考になる情報	行政が住民に行動を促す情報
5	既に災害が発生。命を守る最善の行動をとる	氾濫発生情報、大雨特別警戒報(※)	災害発生情報
4	災害が発生する恐れが高く、緊急避難する	氾濫危険情報、大雨警戒報(土砂災害)や洪水警戒報の危険度分布(非常に危険)、土砂災害警戒情報	避難指示、避難勧告
3	高齢者らは避難。それ以外の人も自主避難を進め、自主避難の準備を進め、避難先やルートを確認	氾濫警戒情報、大雨警戒報(土砂災害)、洪水警戒報(土砂災害)や洪水警戒報の危険度分布(警戒)	避難準備・高齢者等避難開始
2	避難の準備を進め、避難先やルートを確認	氾濫注意情報、大雨警戒報(土砂災害)や洪水警戒報の危険度分布(注意)	大雨注意報、洪水注意報
1	災害への心構え		大雨注意報、洪水注意報

4 避難勧告」を出したの トモニター登録者の成人男を受け、同大防災マケテ 5902人が回答した。インク研究チームが11、12 警戒レベルの理解度を尋ねたところ、「よく知って

いる」「少しく知っている」と答えたのは計60・9%。年代が高いほど理解度は高かった。

5902人の中からレベル4が出た4市町に住む3199人を抽出し、当日の行動を尋ねた。195人(6・1%)が何らかの避難行動を取っていた。自宅や近隣施設の2階以上に逃げた人の割合が最も高く、地域の指定避難場所が最も低かった。避難した人の年代別は20代が最多で、高齢になるほど逃げていなかった。

警戒レベルは理解していても避難しない高齢者の傾向が浮かんた。

警戒レベルの評価を巡っては、61・9%が「どう行動したらいいか分かりやすくなった」と回答。一方で「意識や行動に変化はない」も66・3%に上った。このほか「警戒レベルによる情報提供を続けてほしい」(84・6%)、「レベル4で出社、登校禁止にすれば避難につながる」(72・9%)との声もあった。

調査を主導した江戸克栄教授(防災マケティング)は「警戒レベルへの期待が高いことが分かった。実際の避難につながる具体的な取り組みを社会全体で進める必要がある」と指摘する。